

まゆだま 通信

News Letter

文部科学省 女性研究者研究活動支援事業

発行
国立大学法人群馬大学
男女共同参画推進室

〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町 4-2
TEL:027-220-7146
FAX:027-220-7143
mail:kyodo-sankaku@jimu.gunma-u.ac.jp
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/



2015.12
vol.9

群大まゆだまスクール in あらまき開催

8月7日、群大まゆだまスクールin あらまきが開催されました。1年生から5年生までの23名（女子15名・男子8名）が参加しました。各キャンパスからは荒牧7名、昭和10名、桐生4名の申込がありました。遠方からの参加を配慮し、保育士2名と教育学部の学生有志15名で、朝7時から夜6時半までの長時間の保育を担当しました。学生の実習としてお楽しみタイム「Myうちわでバレーボール対決」「Let's go シャボン玉ワールド!!」を企画運営し、総合情報メディアセンターで午前中は一緒に学習に取り組みました。昼食は学食を利用し、子どもたちが思い思いにメニューを選び、500円の予算を工夫してうれしそうに注文していました。また、平塚学長からも「皆が元気であるから、お父さんやお母さんが大学でお仕事をがんばれるのです」とご挨拶いただきました。そして、子どもたちの感想を聞いた保護者からは「将来教育に携わる学生さんが協力してくれたというのは非常にありがたいことだと思います。学生さんにとっても、よい体験であったらいいなと思います」と協力者への感謝と次回も参加したいという声が多く寄せられています。



3キャンパスにベビーキープを設置しました

このたび、荒牧・昭和・桐生の3キャンパスにベビーキープを設置しました。ベビーキープは乳幼児を安全に座らせておける赤ちゃん専用の椅子です。設置場所は荒牧キャンパスが教養教育GB棟1階多目的トイレ内、昭和キャンパスが共用施設棟1階多目的トイレ内、桐生キャンパスが総合研究棟1階多目的トイレ内となっております。どうぞご利用ください。



荒牧キャンパス



昭和キャンパス



桐生キャンパス

オープンキャンパスで女子高生向けイベントを開催



桐生キャンパス



荒牧キャンパス

昨年に続き今年もオープンキャンパスで女子高生向けのイベントを開催しました。桐生キャンパスでは7月25日・26日に、女子限定学科横断見学会ツアー、女子学部生による相談会、女性の先輩や教員による講演会のDVD上映等のプログラムを行いました。延べ参加者数は、162名（見学ツアー80名・相談会15名・DVD上映会67名）と話題を呼び、アンケートでも、全学科の研究室の様子が見られて参考になった、優しい女子大学生と受験や大学生活について話をする良い機会になったと大好評でした。荒牧キャンパスでも、8月1日・2日に「女子高生向けの説明会」が開催されました。群馬大学まゆだまプランの概要説明、女子大学院生による研究室紹介動画の上映、女性教員による女子の活躍紹介の3つのプログラムを行いました。昨年の反響の大きさから今年により広い部屋での開催となりました。延べ参加者は435名（女子高生317名、保護者118名）で、アンケートでも、実際に大学院生の話を聞いた、学生さんが作ったビデオはとてもおもしろくて大学院の様子がよく分かったと大好評でした。

平成27年度地域連携ワークショップ

群馬大学女子学生と前橋市役所OGによる キャリアと将来を考えるワークショップ

～キャリアと自身や地域の将来について語り合おう!～開催

10月7日、前橋市役所3階31会議室にて女性のキャリアと将来を考えるワークショップを開催しました。大学院生を含む女子学生20名と前橋市に勤務する卒業生4名、前橋市及び男女共同参画推進室関係者5名が参加しました。ワークショップでは自己紹介に続き、私の将来の夢と希望、女性が働き続けるために必要なこと、先輩から後輩に伝えたかったことについて各グループで語り合いました。既に就職が決まっている人、これから進路について考える人と立場は違いましたが、振り返りでは「女性のコミュニケーション力への期待」や「今はやりたいことをしっかりやってほしい」、「子どもができると生活のバランスは変わるが気負わずにやってほしい」と先輩からエールが送られました。また、参加者から「結婚、出産後の働き方についてもしっかり考え、職業を選択しようと思った」と前向きな感想があり、先輩からは「群馬大学の皆さんが将来のことをこんなにも真剣に考えていること



に感動しました」、「普段思っただけでも口にしないこと（女性の生き方、仕事と家事・育児、プライベートの両立）を語ることが出来ました」とうれしい感想が寄せられました。

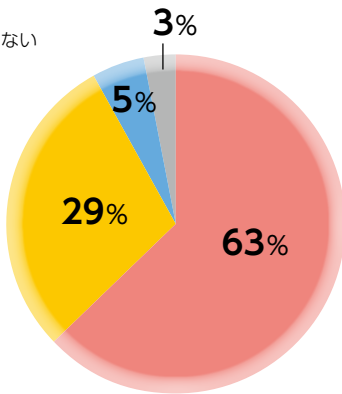
育児・介護に関するアンケート 調査報告 <介護編>

平成27年5月22日～6月12日にお願した育児・介護に関するアンケートにご協力いただきありがとうございます。前号では育児に関する結果を報告しましたが、今回は介護に関するアンケート結果の抜粋を紹介します。詳細はホームページに掲載していますので是非ご覧ください。

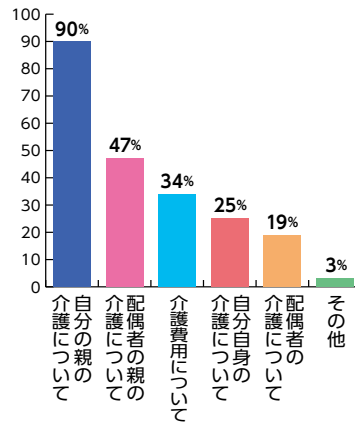
介護

介護に関する不安はありますか

- ある
- 特に考えたことはない
- ない
- 無回答

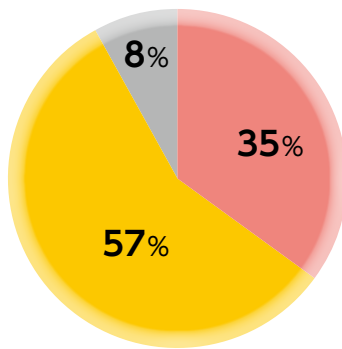


介護のどのようなことが不安ですか（複数回答）



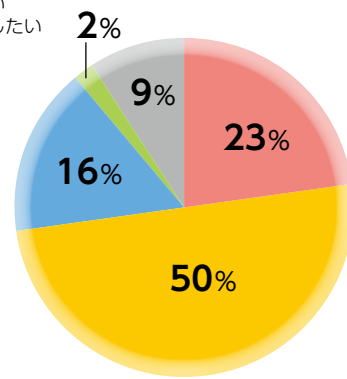
介護に関する学内の制度(介護休業等)を知っていますか

- 知っている
- 知らない
- 無回答



介護に関する学内の制度を利用しようと思いますか

- 積極的に利用したい
- 可能な範囲で利用したい
- わからない
- その他
- 無回答



アンケート結果をうけて

まゆだまプランも3年目を迎え、より現実的なニーズを探るためにお願したアンケートでしたが、1650枚、48%の回収率と多くの方が関心をもってくださったことにお礼を申し上げます。育児に関しては「小学校に入ってからが大変」、「長期休みの対応に苦勞する」、「学内の一時保育があれば利用したい」といった声を受け、夏休みに「まゆだまスクールinあらまき」を開催しました(本号で紹介)。介護に関しては経験者は少ないものの、将来の不安があるという方は63%、何らかの制度があれば利用したいという方は73%に上りました。介護を要する方も研究活動支援制度の対象となっておりますが、そのほかの支援体制はこれからの課題と考えています。

自由記載のご意見も多数いただきました。(荒牧地区26件、昭和地区131件、桐生地区15件)「学内の制度はわかりにくい」、「あっても利用しにくい」、「制度をもっと充実させてほしい」、「非常勤でも利用しやすくしてほしい」、「社会として考えるべき」等々のご意見をいただき、まだまだ大学として考えることは山積みと認識しました。男性の育児休暇は夢のまた夢、という意見も多数ありました。国際的にみると、日本男性の育児参画時間は先進国の中で断トツの最下位というデータがあります。男性の育児・介護への参画が当たり前の職場、社会も考える必要がありますが、このような活動の中から、一歩ずつできることを模索していきたいと思えます。

社会情報学部長インタビュー ～男女共同参画を語る～

インタビューー 富山 慶典 社会情報学部長

インタビューアー 工藤 貴子 男女共同参画推進室長

末松美知子 男女共同参画推進室
意識啓発 WG リーダー

長安めぐみ 男女共同参画推進室
支援体制・環境整備WGリーダー



学部の男女共同参画の状況とこれから

富山：社会情報学部は、創設22年目になりますが、学生の男女の割合はもうずっと、ほぼ半々です。人間的なものを扱っていることと新しい学問ということが理由かもしれません。他方、女性教員は、創設当時から現在まで継続して非常に少ない。

末松：最大で3名ですね。これは文系の学部としては、少ないです。

富山：かつて育休を取った人もいましたが、そのまま辞めてしまいました。現在は29名中2名ですから、7%弱です。教員も大体半々にもっていくのが私はいと思っています。その理由の1つ目は、学生さんの比率が半々だということ。2つ目は、健全で、安心・安全な情報社会を構築していくためには、やはり女性の視点がとても大切になるということ。日本では、インターネットに対する不安感のようなものが大きいけれど、その中で、好調な領域は、働く若い女性のネット・ショッピングです。社会情報学としては、女性の視点をもっと入れていきたいところです。

末松：でも、そういう研究をしている女性研究者は。

富山：少ない。社会情報学会でも、女性研究者が非常に少ないですね。バーチャルな世界を扱う研究が多いせいなのかもしれません。

工藤：女性は、現実的な方が好きなのでしょうかね。

末松：今後文科系の科目で教員がまた募集できると、その辺は女性が結構いる分野なので、可能性も高まるのですが。

富山：外から後任を採るときに増やしていくということですね。

「夫にやって欲しい家事ベスト5」

末松：先生ご自身のご家庭では男女共同参画が進んでいらっしゃるのか？先生と奥様は一緒に週末に1週間分のご飯を作るんですね。それを2つに分けて、半分は家に置いて、半分を持ってこちらに来て。

末松：先生ご自身は、役割分担などはあまり気にならないのですか？女性と男性の。

富山：僕自身は…別に気にならない。うちでは奥さんが教授、料理のときはね、私は助手。夫から言うと、何をどうしたらいいか分からないというのが、多分正直なところではないか。奥さんの側から言えば、下手に入ってくるなど。要するに邪魔だと（笑）。余計なことをするし（笑）。

富山：でね、考えてみました。奥さんに、夫にやって欲しい家事ベスト5を出してもらってまず夫が何をしたいか分からないということを解決する。奥さんの方からしてみたら、やって欲しいことを言える。次はやはり、家事のポイントを教えてもらうしかない。教わったら、まずやってみる。夫はね。そうしたら申し訳ないけれども、とりあえず褒めてください（笑）。そうすると男は「そうかな」と。顔はニコニコしないかもしれないけれども、内心は嬉しい。ニュースレターに掲載されたら、奥さんに記事を渡そうと思うけれども（笑）。取材の前に「何やってほしい？」と家事ベスト5を実際に聞いてみました。そうしたら、結構出てきた（笑）。

末松：本当に出てきたのですか？

富山：掃除系が多いね。今やっていることは1個しかなかったのだから「ああ、これはいかん」と思って。「まず1つやります」と言って、お風呂場の掃除をやり始めました。このように、男女共同参画推進室がアイデアを募集して、楽しみながらやるのもいいのではないかと思います。

末松：男性からの貴重なご意見として承ります。

富山：また、若いご夫婦を対象にしたアイデアですが、お子さんが生まれたときに、ご主人に育休を取得するように、まず促す必要があると思います。阻害するのが上司なんだけれども、とにかく、上司の方に、部下が育休を取得できるように配慮をぜひ考えてもらいたい。どこか1箇所でもうまくいって、こうやって工夫しているという話が出たら、だんだん上も動いてくるかもしれない。新しい人を雇うことがなかなか難しくなっているのだから、そこだけに頼ってしまうと、男女共同参画も難しいのではないかと。アイデアを出し合って、何かやってみることも大切なのではないでしょうか。

